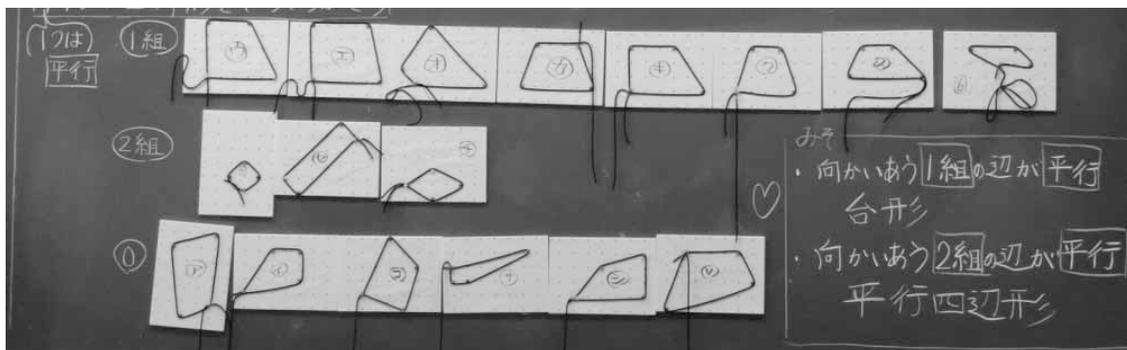


(4) 児童が提出した四角形に①から順に記号を割り振り、本時の学習課題に戻り、平行の個数に注目して仲間分けすることを伝える。

(5) 児童の発言から、向かいあう1組の辺が平行となる四角形と2組平行となる四角形と0組の四角形に分類する。

向かいあう1組の辺が平行な四角形を台形、向かいあう2組の辺が平行な四角形を平行四辺形ということを教える。



3 学習上の留意点

- ・(2) で、児童がドットボードに作成した四角形を記入するためのワークシートを配付する。
- ・(4) の児童が提出した四角形に①から順に記号を割り振る際、児童が仲間分けしやすいように最初に台形のものを選んだほうがよい。
- ・①の形のようによく見ると平行が0組の四角形がある場合、平行の定義を復習し台形とは異なる四角形であることを確認する。



4 学習の効果

- ・どの児童も興味をもち、ドットボードを操作し、四角形を作る活動を行える。
- ・仲間分けの学習を通して、台形、平行四辺形がどのような形か確認することができる。
- ・この授業の後、次時で児童の記入した四角形をプリントし、平行な辺の組の数に注目した復習問題を出題し、その後平行四辺形の性質に注目した学習に入ると、児童の主体性が持続できる。

また、同様に児童の中でひし形を記入した児童がいればプリントし、ひし形の学習に入ると、児童は主体的に学習することができる。

